

平成31年度 知事と部課長及び地方公所長合同会議

知事あいさつ要旨

平成31年4月12日（金）県庁行政庁舎 2階講堂

皆さんこんにちは。部課長地方公所長会議に際しまして、職員の皆さんに、新年度にかける私の思いをお話したいと思っております。

4月1日からメンバーが新しくなりました。副知事として遠藤さんに、公営企業管理者として櫻井さんに、そして初の女性教育長として伊東さんに就任いただきました。我々特別職も、新たな気持ちで県政の運営に取り組んでまいりたいと考えております。

東日本大震災から8年が経過いたしました。復興計画期間が残り2年を切りました。復興の完遂に向けて、これまで以上に力を注ぐ必要があります。新たな宮城県に向けての正念場です。

私は、年頭の定例記者会見で2019年の抱負を示す漢字として、「新」、「新た」という字を発表いたしました。先日公表されました「令和(れいわ)」という新しい元号の下で、新しいことに果敢に挑戦し、宮城県を新たなステージに進めていくために、引き続き職員の皆さんと力を合わせ、県庁一丸となって取り組んでまいりたいと考えております。

本県の最優先課題は復興の完遂です。震災発生からこれまで、被災した市町や国と力を合わせ、総力を結集して取組を進めた結果、県内の主要な道路や病院、学校など生活に密着したインフラ整備は概ね順調に進捗しております。

しかしながら、被災された方々の心のケアや、災害公営住宅への転居に伴う新たな地域コミュニティの形成などソフト面の課題に関しましては、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援が必要であるとともに、復興計画期間終了後も中長期的な対応が必要であると考えております。

2021年度以降の取組に関しましては、昨年度から被災した市町のご意見を伺いながら支援のあり方を検討するとともに、必要な財源の確保に向けて国へ要望をしております。

先月、復興庁の後継組織の設置が盛り込まれました「復興の基本方針」が発表され、必要な課題等は概ね盛り込まれましたが、これまで通りという訳にはいかないと思います。国からの財政支援が限られる中で、真に必要な取組を確実に進めていく必要があります。

全ての被災された方々が一日も早く生活再建できるように、引き続き、被災した市町と共に全力で復興を進めていただきたいと思います。

また、全国から、多くの応援職員の方々に復興のためにご尽力をいただいております。改めて心より感謝を申し上げたいと思います。慣れない土地での大変な仕事です。不安や悩みなどを、気軽に周囲の職員に相談してもらえるような環境整備に心がけていかなければなりません。ここにおられます皆さんが、そうした気遣いを是非持っていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

今年度は、復興の完遂へ向けた取組の加速化に加え、復興の先にある新たな宮城の姿を見据えて、一步ずつ歩みを進めたいと考えております。特に力を入れていく取組をいくつか紹介をさせていただきます。

農林水産の分野では、様々な課題に機動的に対応するため、今年度から「農政部」と「水産林政部」を設置いたしました。

新体制の利点を活かし、儲かる農林水産業の実現に向けて、最先端技術を活用したスマート農業の推進、水産加工業者の輸出促進に向けたHACCP(ハサップ)認証取得への支援、CLT建築物の普及による県産材の新たな需要創出、都市と農山漁村との交流人口の拡大など、全力を注いでまいりたいと考えております。

観光については、昨年観光客入込数が震災前の水準を超えて、過去最高を記録いたしました。キャンペーンの成果が現われたと考えております。今年度は「サザエさん」、「ポケットモンスター」と連携し、親子三世代・ファミリー層をターゲットにした観光キャンペーンを展開し、県全体で更なる交流人口拡大に向けて取り組んでまいります。観光キャンペーンは来月から、サザエさんをスタートいたします。さらに、データ分析によるデジタルマーケティングの推進や、キャッシュレス決済の導入によるインバウンド消費を取り込むための環境整備など、総合的なインバウンド対策を講じてまいりたいと考えております。

観光は地域活性化に必要不可欠であり、復興計画期間終了後もこうした施策

を継続していくためには財源が必要であります。観光財源のあり方についても、しっかりと検討を進めていく所存でございます。

東京2020(ニーゼロニーゼロ)オリンピック・パラリンピック競技大会に關しましては、昨年、競技日程が正式決定され、本県で行われますサッカー競技の日程が公表されました。また、聖火リレーについては、東松島市の航空自衛隊松島基地が聖火の到着地となるなど、日増しに気運が高まっております。

この大会は、被災された方々をはじめ、県民がスポーツのすばらしさを体感し、参加国の方々とさまざまな交流をする中で、復興の姿を発信し、支援への感謝を伝える「復興五輪」であります。大会の成功に向け、来県する方々へ最大限のおもてなしができるよう、全庁を挙げて対応してまいりたいと思っておりますので、皆さんよろしく願いいたします。

また、8月から9月にかけて「リボンアートフェスティバル2019」が牡鹿(おしか)半島と石巻市街地を舞台に開催されます。前回より、さらに復興が進んだ元気な姿を多くの人に見て貰えるようにしっかりと支援してまいります。

子育て支援など保健・福祉の分野では、10月から幼児教育の無償化が実施されます。県としても、子育て世帯の経済的負担の軽減を図るために、より一層の支援を行ってまいります。

また、県民の健康を守るために、東北大学と連携して健康な地域づくりの先進モデル研究を実施するとともに、児童虐待防止のために警察など関係機関との連携を強化し、初動対応の迅速化を図ってまいります。

さらに、発達障害児(者)への支援体制の充実のため、各圏域の支援機関に地域支援マネージャーを配置するなど、これまで以上に保健・福祉の分野に力を入れてまいりたいと考えております。

創造的な復興の取組につきましては、次世代放射光施設の造成工事が先月からスタートいたしました。地元中小企業にとっても、整備・メンテナンス業務の受注や施設を活用した研究開発の推進など、大きな効果が期待されております。

地域産業への波及や人材の定着、雇用創出に確実につながるよう、関係者間で密接に連携してまいります。

また、上工下水一体官民連携については、今年度は詳細な制度設計を進め、実施方針条例の策定や運営権者募集等の手続きを本格化させてまいります。これまで以上に丁寧な説明と情報発信に努めながら、2021年度中の事業開始を

目指して着実に取組を進めてまいりたいと考えております。

次に、仕事に当たっての心構えとして、今日この場で幹部職員の皆さんにお願いしたいことが4点ございます。

1点目は業務のチェック体制についてであります。これまでも繰り返し徹底を求めてまいりましたが、気仙沼市や南三陸町における防潮堤工事のミスやメールの誤発信による個人情報の流出など、複数の目でチェックすれば防げたであろうミスがたびたび発生しているのが現状でございます。

危機意識が希薄になってはいないでしょうか。小さなミスが積み重なり大きな影響をもたらすこともございます。

どんなに注意をいたしましても、ヒューマンエラーは必ず発生いたします。職員を信じるということはきわめて大切であります。任せきりにするのは違います。担当者の仕事を、幹部職員の皆さんがしっかりとチェックをしてほしいと考えております。

私の尊敬するパナソニックの創業者の松下幸之助さんは、常々「任せて任さず」と言っておりました。職員を信用して任すという事はきわめて重要ですが、任せきりにしてはダメなのだ。やはり責任はその部署のトップが担わなければならない。しかし、任せる限りは思い切ってやらせてみせる、これが重要だと言われました。私もそれを実践しているつもりでございまして、皆さんを信じて任せております。けれども、全て任せきりにせず自分が重要だと思うことは遠慮無く首を突っ込ませていただいているということでございます。この良い緊張関係というものを是非皆さんも、それぞれの部署で保っていただきたいと思っております。

次に、職員の年齢構成のことについてお話しいたします。実は、震災前と比較して職員の年齢構成が大きく変化しております。スライドを見ていただきたいと思います。震災前と比較致しまして職員の年齢構成が大きく変化しました。これが震災前、平成22年度の職員の年齢構成です。このような形で、年齢構成が高くなるに従ってだんだん職員数が多くなっています。そして、中堅以降になるとだいたい水平というような感じでしたけれども、これが平成30年度は見ての通り、震災の関係で若い人を多く採用しましたが、22年の時に採用した人たちが10年近く経ってほぼ中堅の職員になったところが、大きな谷になって

しまっています。30代前半までの若手職員の割合が大きく増加している一方で、30代中盤から40代前半までの中堅職員の割合が大きく減少しているということでございます。

組織の若返りは歓迎すべきことでありますけれども、組織力を向上させていくためには、これまでベテラン職員が担ってきた若手職員への相談対応や指導・助言、ミス防止のチェック機能など、組織マネジメントを、今後は中堅職員にも担ってもらう必要があるということでございます。

中堅職員が、早い段階から組織マネジメントに関与する機会を設けまして、マネジメント意識の醸成と資質向上を図ることができるように、幹部職員の皆さんがうまくサポートしていただきたいと思っております。これからは中堅職員をしっかり育てていかなければならない。そうしなければいつまでたっても、皆さんが若手職員の面倒までみなければいけなくなってしまいますので、この谷の部分の30の始めから50になるくらいの、この世代の人たちを、ここにおられます皆さんが育てて、能力を高めていっていただき、そしてその人たちが若い人たちを育てるようにしていかなければいけないということです。これも先ほど言ったように、任せて任さず、任せきりではダメということで、よく見て細かいチェックをしながら、指導しながら、人の育て方というものを教えてあげていただきたいと思っております。

2点目は、名札の徹底についてお話をいたします。

今年度、職員用の名札を20年ぶりに一新いたしました。これまで、名札の安全ピンで衣服に穴が開くなどの理由から、職員が規定とは異なる名札を着用する事例が散見され、県職員になりすましをされるリスクもございました。

新しい名札は、服装に左右されず着用でき、偽装防止にも配慮いたしました。

今後は、規定の名札の着用を徹底いたしまして、県職員としての自覚と一層の責任感をもって仕事に取り組んでいただきたいと思っております。

この名札、全員着けるようにしてください。今までは着けづらいということで他の名札を着けていた方もおられましたけど、今後は必ずこの名札を着けるようにしてください。

県民目線で考えましても、この名札は県職員だと判るということで非常にメリットがあると思っておりますので、必ずこれは着けるように徹底してください。

3点目は、県内経済を押し上げてきた復興需要等についてお話をいたします。

すでに復興需要はピークアウトを迎えました。

民間需要を喚起し、地域経済が活性化する対策を講じていくことが重要であります。そのためには、県内の企業数の99%以上を占める中小企業・小規模事業者の持続的な発展が必要不可欠であります。

今年度から、復興計画期間後の宮城県の針路を示す新たな総合計画と、今年度で終期を迎える地方創生総合戦略の改定に向けた検討が始まります。これらの計画の策定に当たっては、人口減少や高齢化など宮城県が直面している課題への対応策や、復興需要収束後を見据えた産業成長戦略についても検討していかねばなりません。

その鍵は「現場」にあります。

現場には、問題を解くための鍵となる生の情報が隠されております。足繁く現場を訪問し、地元企業のニーズやシーズをしっかりと把握することで、思わぬヒントを見つけることがあるかもしれません。

地方公所の職員の皆さんは、管内の動向にしっかりと目を配って、これまで以上に市町村や地元企業、関係団体との意見交換を行い、アンテナを高く張っていただきたいと思っております。

私が常々言っておりますのは、我々は県民のため、市町村のために存在するのだということです。是非、地方公所の皆さんは、現場に赴いていろいろな声を聞いていただいて、その声を拾い上げて、私どもの方に伝えるように努めて頂きたいというふうなお願いを申し上げます。

4点目は、毎年お伝えをしておりますが、危機管理体制についてでございます。

昨年度は、刃物を持った男が交番を襲撃し、警察官が命を落とすという大変痛ましい事件や、西日本豪雨・北海道胆振東部地震など大規模災害が発生をいたしました。

有事の際には、初動対応が何よりも肝心であります。

事件、事故、災害はいつ起こるか分かりません。あらゆる危機に対して、日頃から備えていただきたいと思っております。

特に、年度始めは人事異動により組織が脆弱になる時期であります。また、来月は改元に伴う長期間のゴールデンウィークが控えております。今一度、初動対応の手順などを再確認し、有事には迅速かつ確実な対応に万全を期すようお願いを申し上げます。

ゴールデンウィークの最中は山火事が起こることが多いので、山火事が起こるかもしれないというふうに、常に意識をしておいていただきたいと思います。

必要な職員は必ず連絡が取れるように、お願いを申し上げたいというふうに思います。

また、震災の際に全国の自治体からたくさんの支援をいただきました。もし、他の自治体で何か災害が起きた場合には、今度は私たちが恩返しをする番だと思います。

宮城県には、震災を経験した防災のスペシャリストが揃っております。震災の教訓を活かして、全力でその際には手助けしたいと思いますので、仕事が忙しくてもよろしくお願い申し上げたいと思います。

結びになりますが、ポスト復興を見据え、県民一人ひとりが幸福を実感し安心して暮らせる宮城を、県民の皆さま、職員の皆さんとともに築いてまいりたいと考えております。

そのために、最高のスタートが切れるよう、年度初めから全力で走り出していきたいと思います。私もエンジン全開で突っ走ってまいります。

今年度は、改元への対応、消費税の増税、参議院議員選挙、県議会議員選挙など重要な出来事が控えております。しっかりと対応できるよう全身全霊で頑張っ

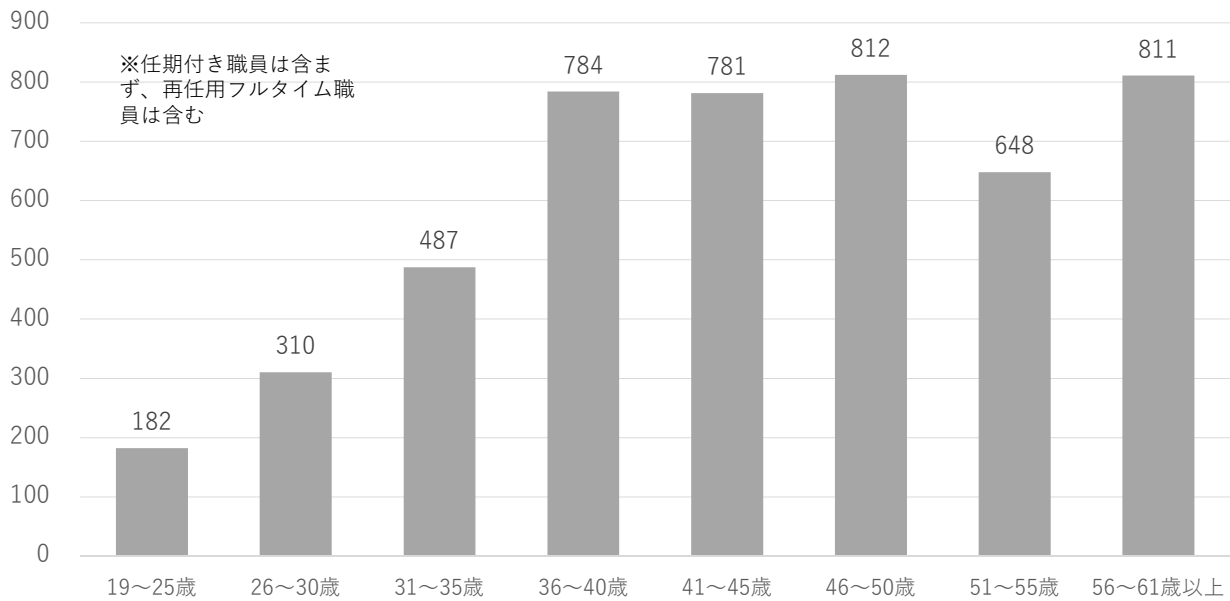
て参りましょう。
それでは今年度も、「前向きな行動力」のM、「明るさ」のA、「知恵」のC、「根性」・「風通し」のKということで、MACK2を大切に、日々の業務に取り組んでいただきたいと思います。

本日お集まりの幹部職員の皆さんのリーダーシップに心から期待いたしまして、年度当初の挨拶といたします。

皆さん、よろしくお願い申し上げます。

(了)

H22年度の職員年齢構成（4,815人）



H30年度の職員年齢構成（4,775人）

